

2024年度 全日本女子野球連盟 大会規則・スピードアップ・マナーアップ要綱（1）

項目	具体的内容	対応方法	関連規則
1)イニング数	7イニング制		WBS C規則
2)正式試合となる回数	球審によって打ち切りを命じられた試合（コールドゲーム）が正式試合となる規定回数を「5回」とする。	降雨・日没などにより試合成立前に継続困難となった場合は継続試合とする。続行試合は、大会本部が協議して決定する。	WBS C規則 公認野球規則(7.01c)、アマ内規⑬
3)得点差によるコールドゲーム	5回終了以降10点以上の得点差がある場合、コールドゲームとして試合の打ち切りが宣告される。	※大会規定等により別途定めることができる。	WBS C規則 公認野球規則(7.01c)、アマ内規⑬
4)延長回に関わる特別規則（タイ・ブレイク）	7回の攻撃を完了し、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、0アウト走者1、2塁の状態から行うこととする。	※大会規定等により別途定めることができる。	全日本女子野球連盟内規 6
5)指名打者	指名打者(DH)の採用を認める。	※MLBルール（いわゆる大谷ルール）に関しては採用しない。	全日本女子野球連盟内規 11
6)用具	用具規定に関しては、別紙に定める。		全日本女子野球連盟用具規定
7)イニング間	イニング間の時間は2分10秒以内とし、その計時は次のときに始まり、球審がプレイを宣告したときに終わる。 (1) 1回の表は、先発投手が球審からボールを受け取ったとき。 (2) 攻守交代の場合は、第3アウトが成立したとき。 (3) イニングの途中で投手が交代する場合は、守備側の監督が球審に交代を 通告したとき。	※大会規定等により別途定めることができる。	社会人及び大学野球における試合のスピードアップに関する特別規則 1
8)準備投球	投手の「準備投球」は公認野球規則 5.07 (b) に準ずる。ただし、上記 7)計時が開始されてから1分40秒が経過したら、1球だけ投球することができる。	※大会規定等により別途定めることができる。	社会人及び大学野球における試合のスピードアップに関する特別規則 2
9)ベンチ入り人数	ベンチ入り人数は、大会登録名簿に記載された役員（監督、コーチほか）5名以内とプレーヤー11名以上、25名以内の計30名以内とする。但し、特別な事由として大会本部が認めた場合はこの限りではない。	※大会規定等により別途定めることができる。	
10)メンバー交換	先攻後攻の決定、メンバー表交換は、第1試合は試合開始予定時刻の1時間前、第2試合以降は前の試合の3回裏終了時に大会本部にて行う。メンバー表には、必ずふりがなを付け、大会本部で登録メンバーの照合を受けることとする。	※大会規定等により別途定めることができる。	
11)サスペンデッドゲーム（一時停止試合）の適用	天候状態、照明の故障またはこれに類する理由で試合続行不可能となり試合を打ち切った場合、正式試合となる回数に達して両チームの得点が等しかったとき、及び正式試合となる回数に達していないときはサスペンデッドゲームとする。ただし、正式試合となる回数に達して勝敗が決定しているときはコールドゲームとする。 ※降雨・日没などにより試合成立前に継続困難となった場合は継続試合とする。続行試合は、大会本部が協議して決定する。	決勝試合には適用しないが、大会規定等により別途定めることができる。	全日本女子野球連盟内規 5

大会規則

2024年度 全日本女子野球連盟 大会規則・スピードアップ・マナーアップ要綱（2）

項目	具体的内容	罰則	対応方法	関連規則	
スピードアップ	1)12-20秒ルールの徹底	<p>投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内に、走者がいる場合は20秒以内に投球しなければならない。</p> <p>①打者は理由なくして打席を外すことはできない。 （軸足を動かさない指導の徹底）：二塁塁審がストップウォッチで計測する ②捕手は速やかに投手へ返球し、サインの交換も迅速に行う。 ③次打者は速やかに打席に入る。</p> <p>*捕手・打者の行動が影響するのでお互いにスピードアップの精神を尊重すること。</p>	<p>・打者が理由無く、打席に入ろうとしないか、打撃姿勢をどうもしなかった場合、球審はただちにストライクを宣告する。</p>	<p>・投手に対して、早く投手板を踏むよう、及び早く投球姿勢を取るよう審判員が積極的に促す。</p> <p>・打者に対して、早く打席に入るよう、又早く打撃姿勢をとるよう積極的に促すとともに、むやみに打席を外さないよう注意する。</p> <p>・二塁塁審がストップウォッチで計測する。</p> <p>・「塁に牽制球を送球したとき」はリセットする。</p>	<p>公認野球規則(5.04(b))</p> <p>社会人及び大学野球における試合のスピードアップに関する特別規則 3</p>
	2)30秒ルール徹底	<p>監督またはコーチが投手のもとに行った場合、監督またはコーチがファウルラインを越えてから30秒以内に打ち合わせを終了する。タイムをかけた際には、監督またはコーチは小走りで集散する習慣をつける。</p>			<p>WBS C規則</p> <p>社会人及び大学野球における試合のスピードアップに関する特別規則 9</p>
	3)内野手(捕手を含む)	<p>内野手(捕手を含む)が投手のもとへ行ける回数を、1イニングにつき1回1人だけとする。 監督またはコーチが投手のもとに行ったとき、内野手(捕手を含む)も投手のもとへ行くことが許され、そしてそれは内野手(捕手を含む)が投手のもとへ行った回数に数えない。 なお、投手が交代したとき、準備投球の後に内野手(捕手を含む)が投手のもとへ行けば、内野手(捕手を含む)が投手のもとへ行った回数に数える。</p>		<p>野手がマウンドに集まることについては、各塁と投手板の間の中間距離を目安とし、それを越えた場合は、1回としてカウントする。この場合も、球審は守備側のベンチに向かって指でそのタイムの回数を知らせる。</p>	<p>社会人及び大学野球における試合のスピードアップに関する特別規則 10</p>
	4)守備・攻撃タイム	<p>1試合のタイム数【守備時(監督、選手各)】3回【攻撃時】3回【延長】3イニングスにつき1回【守備側タイムの回数制限(作戦タイム)】監督がタイムを取ってファウルライン付近(ベンチを出る)へ行く回数は、1試合に3回を限度とする。内野手(捕手を含む)が2人以上マウンドに集まった場合はタイムの回数1回をカウントする。</p>			<p>社会人及び大学野球における試合のスピードアップに関する特別規則 11</p>
	5)投手交代	<p>4回目のタイムまたは1イニングに2回目のタイムの時には監督は行く前に交代を告げる。</p>			<p>社会人及び大学野球における試合のスピードアップに関する特別規則 7</p>
	6)攻守交代	<p>ゲーム中の全ての行動を迅速に行う。(歩かない、小走りで)ランナーズコーチも歩かずに小走りで移動する。</p>			
	7)サイン伝達	<p>打者が打席を離れてサインを見ることを禁止する。(少なくとも軸足は打席内においてサインを見ること。)</p>			
	8)防具の着脱	<p>走者はフットガード、アームガード着脱を速やかに行う。</p>			

2024年度 全日本女子野球連盟 大会規則・スピードアップ・マナーアップ要綱（3）

項目	具体的内容	罰則	対応方法	関連規則
1)ミット移動の禁止	捕手が投球を受けたときボールの球をストライクに見せる意図でミットを動かす行為を禁止する。			
2)サイン盗み行為の厳禁	走者・ランナーコーチ・ベンチから打者へのサインの伝達禁止。紛らわしい動作をしない。	審判員（控審判員含む）が疑わしき行為と認めた場合、当該監督に厳重注意し、違反と認められた場合は監督の退場もあり得る。	控審判員がそのような行為があるか否かを監視する。又は相手チームの抗議があり、その後違反行為とみなされるか否か大会本部委員も監視する。	
3)ヤジの禁止	相手チーム・審判員への中傷的な野次への禁止。	当該監督に厳重注意し、その後野次が続いた場合は退場もあり得る。	同上。	
4)ボークを誘う声出しの禁止	実際にはスタートを切っていないのに、あたかも盗塁行為があるかのように声を出すのはボークを誘発する行為となる。投手が投球動作（ストレッチを含む）を開始した後、大きな声を発することを禁止する。			公認野球規則(6.04(a)(3))
5)ユニフォーム着用時の喫煙についての注意事項	ユニフォーム着用時の喫煙を一切禁止する。スタンド、球場でのファンの前での喫煙を禁止する。	判明した場合は連盟より警告状をチーム代表者へ送付する。		
6)出迎え禁止	本塁打・投手交代・攻守交替などベンチから出での迎え入れを禁止する。			
7)ベンチ前キャッチボールの禁止	原則フルベン以外でのキャッチボールは禁止する。球場の仕様によりフルベンがない場合等は、試合前に球場ルールとして、キャッチボール可能な場所と人数の取り決める。			
8)バットスイングの禁止	初回または投手交代時に全員がベンチ前に出て投手のモーションに合わせてバットの素振りをするのを禁止する。			
9)試合中、ベンチ外にいる行為の禁止	試合中、プレーヤー以外の選手がベンチ外に出る行為が禁止する。指導者も同様、試合中は、ベンチ内にいることとする。次打者、ベースコーチ及びフルベンにいる投手等以外の者は、ベンチに入っていること。		例外としてイニングの合間に外野方面へランニングすることを認める。ただし、プレイがかかる前には全員がベンチ内に戻ることを。	公認野球規則(5.10(k))
10)審判員の裁定①	打球がフェアかファウルか、投球がストライクかボールか、あるいは走者がアウトかセーフかという裁定に限らず、審判員の判断に基づく裁定は最終のものであるから、プレーヤー、監督、コーチまたは控えのプレーヤーが、その裁定に対して、異議を唱えることは許されない。	宣告に異議を唱えるために本塁に向かってスタートすれば、警告が発せられる。警告にもかかわらず本塁に近づけば、試合から除かれる。		公認野球規則(8.02(a))
11)審判員の裁定②	審判員の裁定が規則の適用を誤って下された疑いがあるときには、監督だけがその裁定を規則に基づく正しい裁定に訂正するように要請することができる。		監督はこのような裁定を下した審判員に対してだけアピールする（規則適用の訂正の申し出る）ことが許される。	公認野球規則(8.02(b))
12)シートノック時のベンチ前で準備する行為の禁止	相手チームがシートノックをしている間に、ベンチ前で素振りやキャッチボール等を禁止する。相手チームがシートノックをしている間は、ベンチ内でできる準備を行い、待機する。			
13)スタンド方向を向いてのベッパ（トスバッティング）の禁止	スタンド(フェンス)方向を向いて、ベッパを行うケースがあるが、ベッパ等の打撃練習は、フィールド方向を向いて行う。			

マナーアップ